

エコツーリズムと野生動物保護の両立



ワイルドライフコミュニティ研究所
南 正人

エコツーリズムとは

自然や文化や歴史遺産などを守りつつ、それらとのふれあいをガイドの解説を受けながら楽しみ、地域の経済振興に結びつけようとする旅の考え方を、エコツーリズムといいます。（日本エコツーリズム協会）

エコツアーとは、

地域の自然や文化・生活を
楽しむことを通して、

結果として、

地域の自然や文化・生活を好きになり
それを守ろうと思う観光

原生自然地域の保全戦略としてのエコツアー

- ・ 1980年代のアフリカ、東南アジア、中南米の森林開発に対する、経済開発の代替案
- ・ 多くの国で保護のために国立公園化
- ・ 自然観察ツアーによる雇用と収入の確保

新しい付加価値観光商品としての エコツアー

- ・ 大量型・団体型観光から個人観光へ
- ・ 余暇の拡大
- ・ 価値観の多様化
- ・ 教育レベルの向上
- ・ 環境への関心の増加
- ・ 情報通信技術の進歩
- ・ 経済のグローバル化

(参考:「自然保護とサステイナブル・ツーリズム」平凡社)

持続可能な利用と保全の一体化

- ・ 保全のために利用する
- ・ 利用するために保全する
- ・ 事業として成功することによる持続

真のエコツーリズムを進めるために

地域の自然＝財産＝資源

- ・ 地域の自然をしっかり理解する
- ・ 地域の自然を保全する
- ・ 適切な利用を行う
- ・ 地域経済への還元を行う

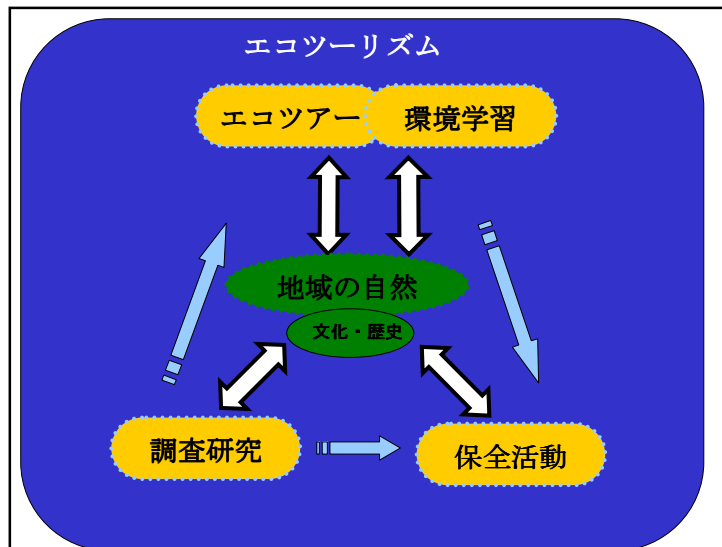
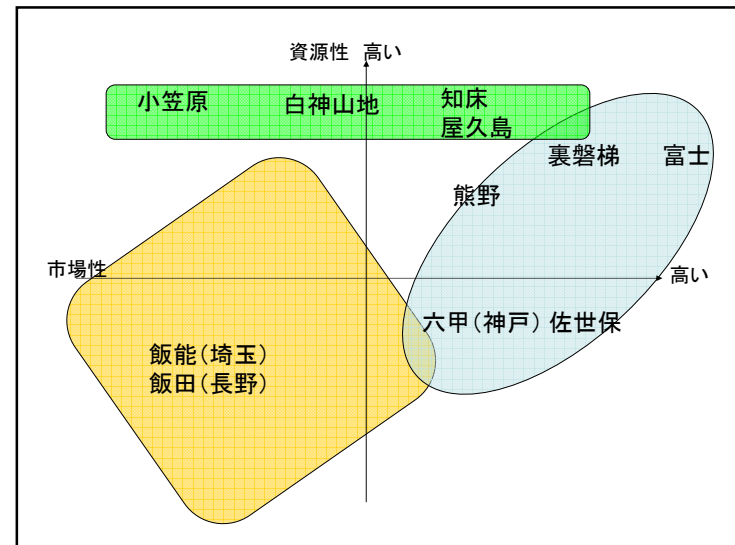
別の流れ

- ・ グリーンツーリズム（農業ツーリズム）
- ・ ブルーツーリズム（漁業ツーリズム）
- ・ エコミュージアム/エコミュゼ
（地域共生博物館、環境保全型まちづくり）

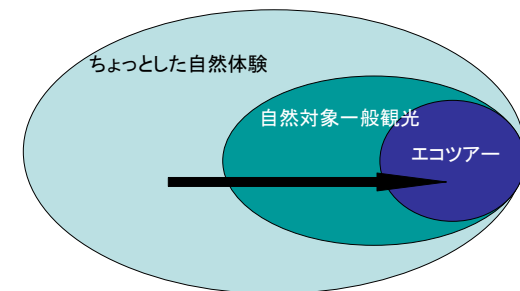
国内のエコツーリズムの3つの類型

環境省・エコツーリズム推進事業での定義

- ・ 類型1：豊かな自然の中での取組
- ・ 類型2：多くの来訪者が訪れる観光地での取組
- ・ 類型3：里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取組



観光客のエコツアーへのニーズの発展

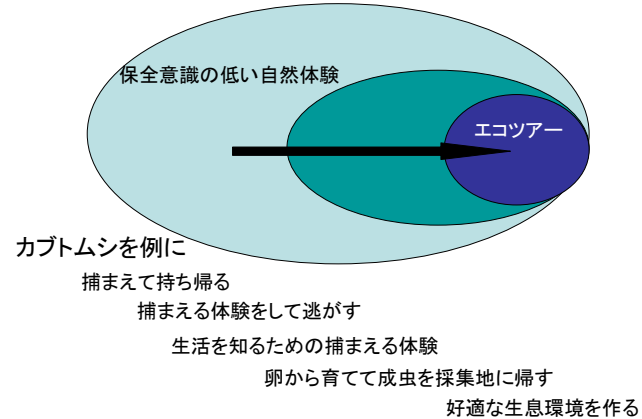


旅先でのちょっとした自然体験参加

自然を対象とした一般観光(例:ヒグマを見る)

知的欲求を満足させる観光

知的欲求と保全意識の発展



エコツーリズムの功罪

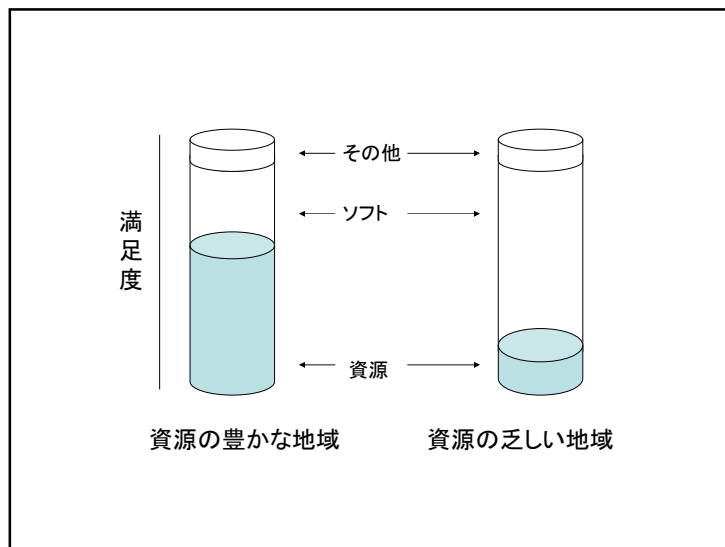
- ・ 経済的な圧力による乱開発・自然破壊を食い止めることができているところがある
- ・ 環境意識の向上に寄与している
- ・ 流入人口の増加や人間活動の増加が自然環境に影響を与えている
- ・ レベルの低いツアーがエコツアーと称して催行され、環境保全型でない企業が利益を得ている

エコツーリズムが意義を持つために

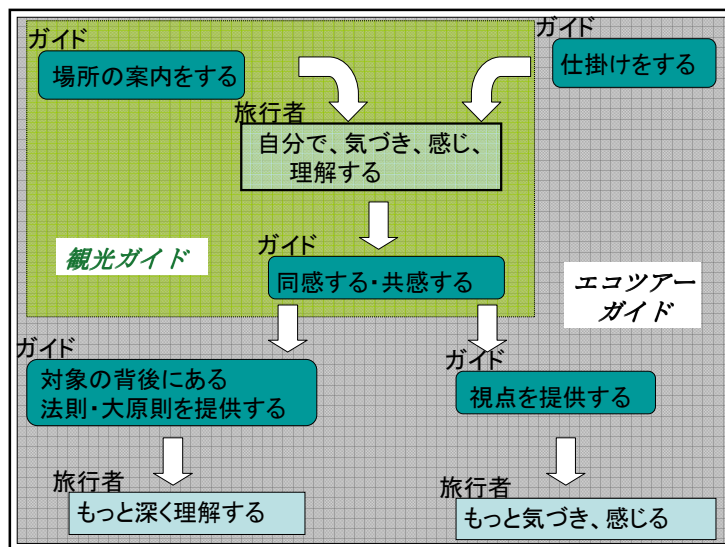
- ・ 勝れた自然地域があること
- ・ 十分に調査研究され、継続していること
- ・ その成果が自然保護の体系の中に活かせる制度機構があること
- ・ ツアー体系の中に高度な生態学、地形学、地質学の素養を有するガイドを制度的に組み込むこと
- ・ 探訪者側にそれを積極的に取り入れようとする姿勢があること

エコツーリズムが意義を持つために

- ・ エコツアーで得られた経済的効果が地域の持続可能性を高めること（貧困、文化的破壊、乱開発、自然への強搾取などに対抗すること）



ガイドがいると？



本で読んだ知識だけのガイドは面白くない

- ・ 実物を見ながら、平均像を話していないか？
- ・ 実物を見ながら、法則だけを話していないか？



ニホンジカです。
雄には角があります。
秋は発情期です。
ハレムになります。

平均像の紹介でおもしろい？

